

わがたましいよ。主をほめたたえよ。
私のうちにあるすべてのものよ。
聖なる御名をほめたたえよ。

わがたましいよ。主をほめたたえよ。
主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。
(詩篇103:1-2)

はじめに

昨年の11月30日、妻れい(51歳)の突然のがん宣告から今日まで怒涛の日々を過ごしてきました。その中で

たくさんの方々からの祈りと励ましのメールをいただきました。心から感謝しています。また妻の病状の問い合わせも頂き、その数が多くとても対応が追い付か

なくなったので、ブログを開設して皆さんに状況を報告しようと思いましたが、思わぬ反響を生んで、祈りの輪が拡がり、家族や友人の中



主は良いお方

God is good all the time

がんの告知を受けた日から

ホノルルキリスト教会 関真士 & れい

で同じ病の中にある方々への励ましとなったり、20年以上前の長男の保育園時代のお母さんからもコメントが来たりして、本当に驚き、感謝しました。結果として

良き伝道にもなっているようです。そして、さらにこのような証の場が与えられたことも主の計り知れないご計画と思いい、心から感謝し、御名を賛美いたします。

1月15日現在の妻れいの状態。肺腺がんが原発で、リンパ、左大腿骨、右尻骨への転移がある、ステージ4という診断です。肺のがんは手術で除去され、左大腿骨はチタンを入れて補強し、腫瘍は放射線治療で除去されました。これから、右尻骨の腫瘍の治療(おそらく放射線)と、分子標的薬という新薬による投薬治療が始まる予定です。

真士とれいの会話

真士 れいさん。今回、このような証の場が与えられて本当に感謝だね。前日まで元気に教会の階段を駆け上り、フラを踊っていたれいさんが、真夜中に突然足の付け根が激痛に襲われたのには驚いた。普段痛みに強いれいさんが、あれだけ痛がるのは普通じゃないと、病院の救急に連れて行ったのが11月30日の夜中の2時だった。

れい それは本当に突然でした。あの痛みが襲ったその夜から、私の人生が大きく変わったように思えました。それまではよく食べて、元気で、飛んで歩いているような生活をしてきたから、救急で病院に入った後は、強い痛み止めをいただいで家に帰ってくるのかな？くらいに思っていたから、子供たちにも知らせずに車に乗せてもらって病院に向かったね。真つ暗な夜の出来事だった。

真士 モルヒネを4本打っても痛みが引かず、痛み苦しむれいさんを見ているのは辛かった。救急も混んでいてかなり待たされたけど、CTスキャンの結果をドクターが伝えてくれた時のことを話してくれる。

れい 私の痛みを心配しながら、一旦、子供たちを学校に送るために明け方家に帰ってくれた真士さんを思うとね、何か大きなものを背負わせているようで、それくらいあの時の痛みは私だけじゃなくて家族のこれからにも大きな変化をもたらしているように思えました。CTスキャンの結果を聞いたのはその時でした。日本人の先生が私を気遣いながらもはっきりと伝えてくれた内容は、痛みの原因は、足の骨に見つかった腫瘍で、恐らくそれは悪性であり、転移であること、その場合の余命は普通なら1年。それを聞かされた時、一度に自分と家族の現在・過去・未来、そして教会のことを考えました。そして、突然のこの現状は、突然であるから余計に神様を感じずにはいられなかった。神様に頼ることしか考えられませんでした。「神様、私、どうしたらいい？助けて!!」そう心で叫んでいました。

真士 病院に戻って、れいさんから結果を聞いて一緒に祈ったね。祈り終わった時のれいさんの顔は、本当に平安に包まれていた。あんなに平安に満ちた顔を見たのは初めてだった。「圧倒的な平安」としか言いようがない。れいさんは開口一番「私は大丈夫だから」って、ものすごく力強く言っていたよ。そして「これから、辛く苦しい中を歩んでいる人にもっと寄り添っていきましょう。」って言ったときに、れいさんの生き様を見せてもらった気がした。他者のために尽くすことが、れいさんの生き方なんだなって、正直、尊敬の念がわいてきたよ。



病院にて

れい 子供たちを学校に送り届けて戻ってきた真士さんに、ドクターから伝えられたことをなかなか言い出せなくてね。思い切って伝えた時の時間は長く感じられたし、夫婦がピツタリ向き合って最高に一つであるようにも思えました。そして、私の手を取って祈ってくれた真士さんが、前日の祈禱会の御言葉「イエスは答えられた。『この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。神のわ

祈り終わった時のれいさんの顔は、本当に平安に包まれていた。あんなに平安に満ちた顔を見たのは初めてだった。——真士

ざがこの人に現れるためです。』(ヨハネ9:3)を通して「神のわざがこの人に現れるためです」と祈ってくられた時、その御言葉が私の身体中に染み渡っていくように私の心に留まるのを感じた。そして、その御言葉は私の中に広がって温かくて静かで強い平安を与えてくれました。その平安が「私は大丈夫」という言葉を言わせてくれたんだね。そして、この病をいただいたからこそ、共にいてくださる神様と共にあります神様の喜ばれる生き方をしたいと望んだの。

真土 御言葉の力だね。イエスが、最後の晩餐の時に弟子たちに語った「わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。(ヨハネ14:27)の意味が本当に分かった。私たちは不安でも、イエスは今の時も平安なんだと。そのイエスの平安にれいさんが



ハワイの海

包まれ、私も同じ平安に包まれていたんだなって分かる。

結局、それから3週間の入院になるとは夢にも思わなかった。その間、何度も検査をして、もしかしたら良性かもしれないという可

能性もありながら、最終的には肺がんが原発で骨とリンパへの転移ということが分かったけれども、それをドクターから告げられた時はどうだったの？
れい 入院中、繰り返しいただいた御言葉の一つはイ

ザヤ書41章10節の言葉でした。「恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろくな。わたしがあなたの神だから。わたしはあなたを強め、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る。」恐れるな、たじろくな、と私に言われる神様は、私の全てを知っておられると思ったの。元気に教会の階段を駆け上って、車を走らせてあちこち飛び回っていた私の身体の中に何が起こっているのかも、ある時突然痛みが襲われて途端に一歩も歩けなくなつて戸惑う私のことも。そして、「神のわざがこの人に現れるためです」と語られた主が、私のこれまでとこれから、痛みや恐れや悲しみも、全てを知っておられるのは、神であられたイエス様が人となって生まれ、生きてくださったからこそ。イエス様が人となってこの地に生まれ、私が今味わっていること以上のものをその生涯と十字架の上で経験してください(ピリピ2:6-8)。私はこの病を頂いて、イエス様が人となって生まれてくださった

ことに心から感謝しました。なぜなら、私の恐れも痛みも涙のひと粒も、神様に理解されず見過ごしにされることは一つもないからです。そのように私はイエス様に知られているのです。
入院中、不思議なことがありました。痛みの中で寝ていると、誰かが私の足をそっとさすってくれるのです。目を開けてみると誰もいません。誰かが私の肩をトントンとたたいたのです。でも誰もいません。それは私を慰めてくださるイエス様です。心も身体も弱り切り、神様に助けを求めている私にはわかるのです。イエス様は慰め主です(Ⅱコリント1:4-5)。慰めてくださるイエス様は、私の心の内に平安を与えてくださいました。この平安はイエス様そのものです。それで、私の心に私の命や存在を揺るがす否定的な言葉がくつつかないで、それは過ぎていくようにして留まらなかつたのです。
そう！一度、手術した足に温かい手が置かれて、「イエス様だ！」と思って目を開けたら、それは、しん

ちゃんだったの。(笑)
真士 そうだったね。れいさんが「シールがくっつかない」って言ったのを覚えてるよ。その時、詩篇32篇10節の御言葉が示された。「悪者には心の痛みが多い。しかし、主に信頼する者には、恵みが、その人を取り囲む。」まさに恵みでコーティングされている感じだね。

今回、二人のテーマになったのが、「主は良いお方 God is good all the time」という言葉。本当に、心からそう思う。がんがあるとか無いとか、確かにそれは大きな事だけれども、それ以上に「神が共にいてくださる」という事実の方が圧倒的に大きい。まず先に圧倒的な神の臨在と平安に包まれているので、「どうして? なぜ?」という疑問が出てこない。出てくる

余地がない。「神が共にいる」、これがすべての答え。そしてこの答えで十分だということが分かった。

でも、れいさんだって落ち込む時だってあるよね。決して鋼の心を持っているわけではない。痛みの中で涙を流し、入院した途端に歩けなくなると3週間もベッドの上から動けず、手術の経験もないのに3週間うちに二度も手術を受け、ドクターからがんの告知や余命も知り、そんな中で、れいさんの心はどうだったの?

れい 3週間の入院中、何度か涙を流した時がありました。初めてがん宣告と命の時間を聞いた時。それから、検査のために腫瘍を採取した時のあまりの痛さに。そして、あんなに元気で走り回っていた自分が、実はすぐに骨折してもおかしく

ないほど腫瘍のために骨が弱っていて、足の手術をして補強しなければならぬと知った時。できれば手術を受けたくなかった。なんとか補強しないで生きていけないかと願った。でも、ドクターの答えは、足に「杭」を埋め込んで補強しなければ、骨折した時はもっとひどい状態になるということでした。

部屋に誰もいなくなると、一人になった時、神様の前に心から泣きました。ぽとぽと涙が落ちました。悲しみは言葉にはなりませんでしたが、ひとしきり泣いたその後に、ドクターが言った「杭」という言葉が私に迫ってきました。その杭という言葉が、十字架上のイエス様の手のひらに打たれた杭と重なりました。イエス様の両手に打たれた杭は、私の罪を赦し、私が

永遠のいのちを得るため、それは十字架の上での「死」のための「杭」です。でも、私がいたたく「杭」は、私を守り、私の命を支えるための「杭」です。それを思い巡らした時、私はこの杭をいただけで、感謝して手術を受けようと思った。そして次の日、手術を受けるための用紙に同意のサインをしました。

がんの告知、余命を知った時、その度私は神様に「助けて!」と叫びました。神様の前で心から泣きました。心は揺れました。でもその度に、心を神様に向けるようとなりました。イエス様が歩まれた道に私の道を重ね合わせてみました。御言葉を思い出そうとしました。そしてその時に私は、平安をいただきました。その平安は、私の心の波を打ち消してくれました。このことは今でも、私からではない、私のために祈ってください。皆様の祈りによると思っ

ています。私は、祈られて祈られて、見えない祈りの手が私を平安の方へと追い込んでくださったのだと。祈ってください。皆様に心

から感謝しています。

真士 ドクターは、すべてを包み隠さず、そのままを伝えてくれる。特に腫瘍内科は、科学的データを蓄積して、そこから数字を出していく作業をする。その中で平均生存期間とか、治療の可能性は何パーセントとか、数字を伝えてくれるけど、必ず最後に「でも、確かなことは分かりません」と言われるよね。でも、そのセリフを聞く時、とても平安になる。なぜなら、命は神のものということがはつきり分かるから。人間の限界を見るとき、逆に神の全能が分かる。本当に命は神の領域、命は神のものだね。

れい 本当に命は神様のものだね。私はこれまでに何度も「私を神様、あなたにお捧げします。」と祈ってきました。また、「神様、私の命はあなたのものです。この命をお捧げします。」とも祈ってきました。でも今回、「時間としての命・命の時間」を目の前に置かれたとき、私は大きな壁に塞がれたような思いに駆られました。動揺しました。一

部屋に誰もいなくなると、一人になった時、神様の前に心から泣きました。ぽとぽと涙が落ちました。——れい



家族全員参加したイクイップパー・カンファレンス

瞬、夫や子供たちとの、この世での時間が灰色に見えた。苦しかった。でも私の手では、この命の時間をどうにも変えられない。その時、友人が、神様の創造されたものに目を向けさせてくれたの。私が見渡して見えるもの、空や太陽、夕焼

けや月・星、ハワイの花々や空を飛ぶ鳥たち。その存在が輝いて見えたの。その色、耳には聞こえないけど、その存在の命の息づかいが聞こえるようだと思つたの。その時、私のこの命も神様のものだなんて思えた。時があり季節があり、時間を

も支配しておられる神様の、千日のような一日一日を私は生きていくんだと思つた。その時、時間としての命・命の時間を超えて、神様のものである命をもう一度、受け取れた平安と安心をいただきました。命は神のものです！

真士 「時間としての命」

つてすごく考えさせられた。そして「命の時間を超えて」とは、まさに「永遠の命」ということだよ。年末には、ロサンゼルス(LA)で開催されたイクイップパー・カンファレンスに参加できたのも、本当にミラクルだったね。その集会のテーマは「キリストにある自由」だった。そこで「れいさんにとつての自由って何？」と聞いたときの答えが、とても心に残つた。

れい 私ががんであること

を知つた子供たちが、年末に家族旅行として計画していたカンファレンスに「絶対にママと一緒に連れて行くからね！」って言つてくれたことは、私にとって大きな慰めだったし力だった。そして希望と目標を与えてくれました。手術後の次の

日からのリハビリは、やる気まんまんで臨みました。フィジカルセラピストから、何度も「You are strong」と褒められて、帰る距離も忘れて前へ前へと進み過ぎて苦笑い。でも、足の手術の後、2度目の肺の手術の後、あまりの苦しさ、飛行機に乗ってLAに旅するのは無理なことだと諦めていました。

ところがその時も、

「Stand women」と声がかして、神様は私に、「もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る、とわたしは言ったではありませんか。」(ヨハネ11:40)と御言葉をくださったり、また御言葉を信じて立つた時、飛行機に乗って海を渡る道を開いてくださいました。

4人のドクターが私に、「あなたの場合は行つてよし！

何を食べても何をして、例えば明日飛行機に乗っても良いほど、あなたの術後の経過はいい！」と太鼓判を押してくれたのです。そして私は、家族と教会、大勢の皆様の祈りに支えられ、神様の翼に乗って術後二週間でLAへと旅することが

できました。

5泊6日のカンファレンスは、よく祈つて整えられ、また私のために祈りと万全の備えをもって迎えてくださるものでした。そこでこのテーマは「御霊による自由」でした。私はメツセンジャーの先生方から語られる御言葉によつて今後の生きる備えをいただき、賛美に導かれて重荷を下ろし喜びをいただき、賛美の力によつて心生かされました。そして、「私にとつての自由って何？」と聞かれたとき、私は即答しました。「私は今、病気の私を生きているのではなく、私は『私』を生きている！それが私の自由！」私は、御言葉と賛美に浸されて、病があつても病から、命に時間があつてもその時間から自由を得たのです！

真士 今回の出来事を通して、

家族の絆がさらに強くなったね。4人の子供たちにとつても大きなショックだったけど、みんなが本当にママに対する愛を素直に表現する姿は、見ていて幸せを感じた。長男の大学の卒業式には参加できなかった



大学を卒業した長男とともに

たけれど、長男がレイを一杯頂いた姿で病室に来たとき、みんな泣いたね。れいさんはもちろん、子供たちもみんな泣いた。子供たちは本当に優しくママを労ってくれて、ママの存在の偉大さ、ありがたさがよく分かったみたい。

から優しい愛の^いなりへと思いを向けていてくれていて、涙が出てきます。本当にありがとう、ありがたいです。私が歩くとき、腕を出して掴まらせてくれる、そんな仕草にも感謝でいっぱいです。長男の大学の卒業式には行くことができなかつたけれど、特別な卒業の雄姿を私に見せてくれました。一生の思い出です。あの病室に神様は確かにおられたね。

それから
私たちは、ロサンゼルス
これからも神様が真ん中におられるところで、ひと時ひと時を家族と共に、神様がくださる神の家族と共に、喜びと楽しみ、また悲しみも、どんなひと時をも受けとめて味わって歩んでいきたいな。お互いが存在することを大切にしながら。

のカンファランスから無事ハワイに戻りました。その数日後、手術した左とは反対の右尻骨部分が突然痛み始めました。耐えきれない痛みになったので救急に行きました。左足のリハビリも進み、肺の方も抜糸が終わって、順調に回復している矢先の出来事でした。その痛みの意味は、腫瘍の影響が出始めたということ、悪いニュースに違いありません。

しかし、れいは、この痛みの中で、「神様ってすごい！ 神様って美しい！」と賛美し始めたのです。どうして…？と思っていると、つまり「もし、この痛みがロサンゼルスに行く前に出していたら参加は無理だったろう。今のこの時に痛みが出たのは神様の完璧な計画、神様の時は本当に美しい」ということなのです。

しかし、病院から家に戻った次の日の夜、れいの心は沈んでいました。繰り返される痛みと試練に恐れを感じてしまったのです。でも、れいは次のように言いました。「心がうつむいて、下を向いたら、そこに神様がおられた。」主を見上げるときはもちろん、もし下を向いたとしても、そこにも主はおられるのです。詩篇139篇8節「たとい、私が天に上っても、そこにあなたはおられ、私がよみに床を設けても、そこにあるあなたはおられます。」の御言葉が心に浮かびました。

最後に、れいは、数日前に一つの御言葉が示されました。「私は、きょう、あなたがたに対して天と地とを、証人に立てる。私は、いのちと死、祝福とのろいを、あなたの前に置く。あなたはいのちを選びなさい。」(申命記30・19)

な時も主は共にいてくださいます。どうぞ、その主にあなたの心の叫びをいつも注ぎだしてください。助けてほしい時、「助けて！」と、れいのように叫んでみてくださいます。主と共にあるその一足は新しい一足、その一息は新しい一息。主は常に新しい恵みといのちで私たちを取り囲んでくださいます。だから、今日も「新しい歌」を主に向かって歌うのです！ さあ、歌い始めましょう！ ハレルヤ！！

★これまでの日々をブログに綴っています。どうぞご覧ください。
<http://blog.goo.ne.jp/sanwa5510459>

私は、御言葉と賛美に浸されて、病があっても病から、命に時間があってもその時間から、自由を得たのです！——れい



God is good all the time.